

おお大勝利

平成 28 年度山東サッカー部報第 1 号 (4 月 12 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

春の関東遠征を終えて

いよいよ 2016 年シーズン始まりました！

この部報が続行されているということは、部報作成者である顧問（私）が残留したということです。前年度部報最終号（第 16 号¹）の数字を基に言えば、残留確率 61%を生き残りました。**皆さま、山東サッカー部、そしてこの部報、今シーズンもよろしくお願い致します。**

今年は積雪が少なく、恵まれた年です。雪の多い年は、3月上旬に河川敷グラウンドの雪に穴を掘り、雪を融けやすくさせるのですが²。今年は3月中旬から、山形でバンバンと練習試合ができる。関東遠征前にも、山工や東海、新北などと練習試合をし、攻撃におけるドリブルでの積極性と守備における連動性（前から嵌めるのか自重し良い距離を保つのか³）を確かめる。特に東海戦では、ミドル 3rd でブロックを作っても、縦パスや縦への侵入に対して厳しく行けないため、守備セオリーのチャレンジ&カバーが構築できずカバー&カバー⁴となるシーンが目立つなど、課題が浮き彫りに。シーズン入りの総仕上げとして、**3月26日~31日まで5泊6**

¹ 例年、年間 24 号ほど作成するのですが、27 年度 16 号で最終ということは、いかに 27 年度負けが込んで公式戦の数が減り部報作成の必要がなかったか、ということを示します（今野が高体連サッカー部の専門委員長になるなどから余裕がなくなり、部報作成を怠ったのも原因の一つではありますが）。28 年度（2016 年シーズン）は 30 号くらい行きたいものです。

² 興味のある方は、山東サッカー後援会 HP を過去にさかのぼって見て下さい。われらが後藤報道局長撮影の証拠写真が掲載されております。

³ 守備組織のあり方として、大まかに、(1)ボールを中心に守るあり方（ハイプレス）と(2)エリアを中心に守るあり方（リトリート/ブロック）の 2 種類あります。(1)は前線から積極的にボールホルダーやその近辺の選手たちにプレッシャーをかけていくやり方（ハイプレス=高い位置からのプレス）で、相手選手にマークを嵌めていき（マンマーク）、パスコースを消しつつボールを奪取しようとするやり方。前線で（ということは相手ゴール近くで）うまく奪えれば、すぐカウンター攻撃が決まる（通称ショートカウンター）。ただし、前線から奪いに行くと、①選手間の距離が間延びしがち。だって、前線が前がかるのに合わせて後方の DF がセンターラインを越して大きく相手サイドのピッチに入るのは、サッカーのセオリーから考えてあり得ない（相手がオフサイドにかからずに一発でゴールに迫れる）。また、②相手の縦へのロングボールに対する対応が悪いと、（選手が前がかり後方配置の選手数が少なくなっているため）縦パス一発で決定機を作られてしまう。よって、相手 FW に猛烈に足の速い選手等がいると、前がかるプレスの裏を掻かれやすくなる。①②のような難点を消すため、ミドル 3rd（中盤）やディフェンシブ 3rd（味方ゴール前）までリトリートして（引いて）、アタッキング 3rd（相手ゴール前）でのボール奪取を放棄しつつ、守備選手間の距離を近く保ち（ブロックを作り）相手がエリアに入ってきたらそこで奪うやり方が登場します。(1)は積極策、(2)は消極策と言えます。この両者、自チーム・相手チームとの力関係次第のところがあり一概にどちらが良いとは言えませんが、いずれにせよ連動性がなければうまくいきません。戦術の紹介が長くなりましたが、**山東では現在この二つの策を使い分けられるチームを目指しています。**

⁴ ボール奪取（ボールへのチャレンジ）の失敗がすぐ失点に直結するような状況では、容易にボールを奪いにはいきません。ただし、後方に味方がいて二人の連携が期待できるときには、前の選手は積極的にチャレンジできるでしょう。奪えずとも相手のバランスを崩せば後方の選が奪えるのですから。この後方の働きをカバーリングと言います。ここでは、誰もボールを奪いに行かず、人数の揃っている守備チームがただ相手のボールキープを見守っている状況を指して、カバー&カバーと言いました。

日の関東遠征に出かける。

新2年・3年の選手合わせて23名（他マネ2名）なので、A・B2チーム登録するにはぎりぎりの人数。よって近年頼るは、OBと新入生。今年関東遠征に参加して下さったOBは、**春2年連続参加のコテッチャンことテツヤ君**（山東64回卒、東京歯科大新2年）と、**誰にも（親にも）告げず仮面浪人してこの春見事第一志望に合格したヨーティーことヨウタ君**（山東65回卒、東北大学新1年）。新入生は、**鍵水先生（山東サッカー部OB）の秘蔵っ子？中山中サッカー部出身のフトシ**と、**山形FC出身でなぜかヨシタカ（山東64回卒）譲りのジャージを着こなすヤマサン**⁵。この4名の人材をアウトソーシング。

まず、3月26日～28日までの2泊3日は茨城県波崎。現地関係者に、「波崎の町でサッカー場は全部で何面あるんですか？」と問うたら、「数えたことないけどな～（困った顔）。70面くらいかな。」という応えが返ってくるくらいの、サッカーの町。サッカーが地元の一つの産業と化している。試合ではA戦・B戦ともに、大量得点での勝利が多い。もちろんこういう試合では攻撃の良さが目立つのですが、その中でもよく観ると、**以前はできなかったようなプレーがしっかり飛び出しており、冬場のトレーニングが芽を出しつつある**ことを実感させる。ただし、A戦ではいずれも入りが悪く、試合運びの拙さを感じさせる。**Bでは、新3年のフミキと新入生のフトシがゴールラッシュ**。フミキは「ここからなら決める」という「フミキの角度」を持っている⁶。フトシは新入生らしからぬパワフルさがある⁷。ともかく波崎では、怪我人が出ないため、OBの出番に期待しないで済む。体を絞りに来たコテッチャンを絞らせない。そして28日千葉入り。千葉では接戦が続き、トレーニング効果が高い。しかし、競り負けることが多く、それだけ課題も明瞭になる。戦術・技術・メンタルいずれの課題も出てくる。波崎で「攻撃が形になってきたな～」と綻んだ顔が、千葉で再び引き締まり、引きつる。しかし、それも現実であり、良い経験。**30日からは千葉在住で上述のOBヨシタカも加わり、プレーで模範を示してくれる**⁸。そして最終日31日の茂原北陵戦では、レベルの高い相手に振舞わされながら、ABとも試合が進むに従い徐々にプレースピードが上がり、良い経験させてもらっていることを実感。結局、一人の怪我人も出ず、充実した5泊6日の関東遠征を終えることができました。思えば昨年は、エースのムンタリが早々に大怪我で離脱、それ以外にも故障者続出で、日程を経るに従いチームのパフォーマンスも個々人のフィジカルの状態もボロボロになり、「行かなかった方がマシだった」とすら思った関東遠征でしたが、今年は打って変わってチームが徐々にたくましくなる経験を積むことができました。

対戦相手の皆さま、大会運営して下さった皆さま、ドライバーさんや旅館の皆さま、本当にお世話になりました。保護者会の皆さまからは激励金頂戴しました。ありがとうございました。今週末、いよいよ開幕戦です。応援よろしくお願ひします。

4月17日（日） 村山地区リーグ（Mリーグ） VS 山形電波 11:05～ @山形明正

⁵ 命名者は、新3年カズマ母です。あだ名について、よく、私がすべてつけていると勘違いする向きがありますので、命名者が私でない場合には、特に強調させていただきます。

⁶ いくら部報で何でも言う私でも、この角度だけは公表できません・・・と一応焦らしますが、大した話ではありません。フミキは波崎では得点しましたが、千葉では全くでした。波崎で大量得点した時には、昨夏の苗場でたまたまFW起用されると大量得点したイメージも重なり、「フミキは県外では決める選手なのじゃないか」などとベンチで話題になりましたが、千葉を経てみると、「強きを助け弱きを憎む」タケチャンマン（古い！）のごとく、弱い者イジメが得意というレベルにとどまっています。高いレベルの相手に高い得点力を示すのが本物とすればまだまだです。とはいえ**FWとして、自分の角度を持っているのは大切なこと**。

⁷ たとえるなら、山東57回卒のシンシンのようなイメージ。といっても、この表現を理解していただける読者の方は、かなりレアと思われれますが。

⁸ そしてその夜から、**OGのミサキ**（ヨシタカやコテッチャンと同期のマネ）も加わり、最終日まで付き合ってくれました。**最終日の茂原北陵のB戦では、副番もしてくれました！（できるところがスゴイ）**